

Title	紫外線及含酸素水ノ連合ニヨル齒牙漂白法ニ就テ
Author(s)	遠藤, 至六郎
Journal	齒科學報, 16(5): 9-13
URL	http://hdl.handle.net/10130/1583
Right	


 海外文獻
 

○紫外線及含酸素水ノ聯合ニヨル齒牙漂

白法ニ就テ

ドクター ローゼンダール 述

大連滿鐵醫院 遠 藤 至 六 郎 譯

予ハ千九百九年ノ初頭ヨリ含酸素水ノ作用ト紫外線トノ聯合法ニヨル齒牙漂白法ニ就テ實驗ヲ行ヒタリ

按スルニ從來齒牙漂白法ニ就テ行ハレタル研究ノ結果ハ不幸ニシテ未ダアラユル種類ノ變色ニ適症スベキ程度迄ニ完全ナル齒牙漂白法ヲ發見スル能ハザリキ而シテ幾多臨床家ノ斷論ノ發表セラレタルアリ又完全ナル學識ヲ有スル學者ノ共同研究ノ試ミラレタルニモ拘ラズ單ニ深在齲齒ガ病理的ニ著色セラレタルカ或ハ不適當ナル治療ニヨリテ著色セラレタル齒牙ニ對シテノ外成功ヲ見ル能ハザリキ是レ等幾多ノ臨床家ニ依テ推薦セラレタル療法ナルモノノ内容ハ何レモ死齒ニ於テ含酸素水

ノ形態ヲナセル漂白劑ヲ一定時間之レニ働カシメタルモノナリキ但シ含酸素水ノ酸性ナルト中性ナルトハ論ゼザルナリ其他クロール化合物ヲ以テ之レニ適用シタルモノナキニアラズ

此レ等ノ諸式ハ何レモ生活齒牙ニ向テ適用セントスル場合ニハ常ニ不便ニシテ且ツ效果不十分ナルガ故ニ如何ナル場合ニモ適應セルモノト云フベカラズ

實際ニ於テ吾人若シ生活齒牙ニ存スル變色ヲ除去セント欲セバ須ラク珐瑯質ヲ通ジテ象牙質ニ達セザルベカラズ但シ此際珐瑯質ヲ變化セシムルコトナク又生機旺盛ナル象牙質ヲ分解セシムルコトナカラシムベキハ勿論ナリ

上記ノ方法ハ珐瑯質ヲ通ジテ作用スル能力ヲ有セズ寧ロ反對ナル方法即チ内部ヨリ外部ニ作用セシムルニアラザレバ成功スルコト疑ハシ但シ是レガ爲メニハ變色齒牙ヲ穿孔シ或ハ生活セシムルノ要アルベシ

上ニ記載シ來レル從來ノ諸式ハ何レモ皆失敗ニ終リシコトハ明白ナル事實ニシテ茲ニ斷言ヲ憚ラザル所ナリ尙酸若クハ「クロール」化合物ヲ以テスル方法ヨリ生ズル主ナル缺點ハ其一定時間齒牙ニ作用スルヤ象牙質ヲ脱灰シテ其硬度ヲ減弱セシムルニアリ故ニ是等ノ方法ノ發見者が其經驗上得タル數多ノ失敗ニヨリ一般術者ヲシテ漂白ニ向ツテ頗ル戒心セシムルニ至レリ

斯ルガ故ニ予ハ他ノ方面ヨリ此ノ研究ヲナシ今日迄推薦セラレタル幾多ノ方法ノ缺點ヲ除キ得ル

程度ノ發見ヲナサント欲シ親友ドクターアツプフェル氏ト共同研究ヲ行ヒタリ

予等ノ術式ニ依レバ「ヘモグロビン」ノ分解產物或ハ牙質及食物殘渣ノ腐敗ニ依リテ生ジタル物質ノ爲メニ深褐色ニ著色シタル齒牙ヲモ迅速ニ漂白シ得ベシ尙此ノ方法ノ特徴トスル所ハ牙質ノ脫灰或ハ齒髓刺戟等ノ不良ナル結果ヲ生ズルコトナクシテ生活齒ヲ漂白シ得ルニアリ然リ而シテ此ノ予ノ方法ノ原理ハ實ニ彼ノ草上ニ於テ「リンチン」ヲ漂白スル方法ト同一原理ニ基クモノニシテ次ギノ二ツノ漂白劑ノ連合作用ニ依ルモノトス一ハ即チ嚴格ナル意義ニ於テ中性ナル含酸素水他ノ一ハ即チ光線是レナリ

クロレスタフトノメグー氏(千九百七年)ベルリンノチーリンスキー氏(千九百九年)等ノ諸氏ハ嘗テ此二物質ノ連用ヲ試ミ且ツ光源トシテ太陽光線ヲ使用シタリ蓋シ其優秀ナル漂白作用ヲ有スル紫色線ヲ含有スルヲ以テナリ

然レドモ其充全ナラザルヤ明ナリ即チ齒科醫ノ正ニ患者ヲ治療セントスルニ當リ太陽雲霧ノ覆フ處トナルベク又此等ガ光線ノ集合ト集中ニ向ツテ硝子裝置ヲ使用シタルハ正鵠ヲ得タリト云フベカラズ蓋シ硝子ハ光線殊ニ吾人ノ觀察點ヨリシテ最モ有力ナルベキ光線ノ大部分ヲ保留スルノ性質ヲ有スレバナリ

予等ノ考案ニナル漂白法ノ創始的方面ハ上記ノ太陽光線ニ代フルニ人工光線ヲ以テシタルニア

リ

予等ノ最初ノ實驗ハ冷却裝置ヲ施シタル「アーク」燈ヲ以テシタリ此第一回ノ實驗ニ於テサヘモ予等ハ何等ノ障礙ニ遭遇セザリシトハ雖モ以後ノ實驗ニ於テ更ニクロメーヤ氏「ランプ」ト稱セラル、石英ノ外套ヲ備フル水銀「ランプ」ヲ使用スルノ前者ヨリ便利ナルコトヲ發見セリ蓋シ此ノ「ランプ」ハ頗ル高熱度ノ「アーク」ヲ發生シ且ツ此等ノ光線ニ對スル石英ノ透過性ニヨリ毫モ損失ナクシテ紫色線及紫外線ニ富饒スルノ利益アレバナリ

予等ノ方法ハ次ノ如シ

先ヅ治療セント欲スル一乃至數齒ヲ「ラバーダム」ニ依テ他ノ齒牙ヨリ隔離セシメ且ツ患者ノ口腔ノ形狀ニ適當ナル大サニ穴ヲ穿テタル廣キ黑色紙ヲ以テ顔面ヲ被ヒ「ラバダム」ノ四隅ニ於テ之レヲ固定シ以テ「ランプ」ヨリ發スル烈シキ閃光ガ皮膚及粘膜上ニ及ボス害作用ヲ完全ニ防禦ス「ランプ」ハ自由ニ長短ヲ伸縮セシメ得ベキ裝置ニテ身長ニ應ジテ之レヲ上下シ可成口腔ニ接近スルヲ得セシム、「ランプ」ハ可成患齒ニ近キヲヨシトス、是ニ於テ齒牙ノ表面全體ヲ適宜ノ濃度ノ中性含酸素水ヲ以テ濕スベシ死齒ナルトキハ根管中ニ含酸素水ヲ飽和セシメタル栓子ヲ插入スルヲヨシトス

手術ハ極メテ細心注意シツ、行ハザル可ラズ而シテ若シ目的齒ガ生活齒ナル時ハ含酸素水ノ濃度及光線ノ強度ハ適度ニ之レヲ測定シ置クベシ、尙患者ヲシテ疼痛ヲ感ゼシメザル様注意セザル可カ

ラズ、若シ死齒ヲ漂白スル場合ニハ「ランプ」強度ノ最大限ト純粹ナル「ペルヒドロール」ヲ使用シテ而モ何等ノ障礙ヲ起スコトナカルベシ

何レノ場合ヲ論ゼズ齒牙ヲシテ治療以前ノ健康状態ヲ保タシムル爲メ詳言スレバ象牙質ノ脱灰ヲ防禦センガ爲メニ絶對的ニ酸性反應ヲ呈セザル含酸素水ヲ使用セザル可カラズ

上記ノ諸條件ノ下ニ行ハル、此ノ聯合漂白法ハ絶對的ニ無害ナルモノニシテ尙特別優秀ナル結果ヲ齎ラスモノナリ、極メテ輕微ナル熱ノ發生及其ノ結果トシテ現ハル、蒸發現象ハ全ク危険ナキノミナラズ却ツテ漂白ノ作用ヲ補助スルノ效アリ

光線ヲ透過セザラシメンガ爲メ楯ヲ以テ口腔及顔面ノ軟組織ヲ保護スベキコト極メテ必要ナリ
略言セバ太陽光線ニ代フルニ一層有力且ツ輕便ナル人工的光線ヲ以テスルトキハ齒牙ノ漂白ニ向ツテ實際的満足ナル裝置ヲ得セシム、今ヤ吾人ハ生活齒並ビニ失活齒組織ヲ犯ス處ノ不快ナル病的著色ハ其慢性「カタル」性黃疸等ノ全身的疾患ニ依ルモノト外傷及其繼發症、續發的著色性龜裂等ノ局所的疾患ニヨルモノト竝ビニ遺傳或ハ先天性著色タルトヲ問ハズ凡テノ著色ヲ確實ニ除去シ得ルモノト謂フベシ